

つばさだより 10月号

港区適応指導教室
「つばさ教室」
令和8年10月発行



(住所) 港区北青山1丁目1番9号 青山中学校内
(電話) 03-5422-1548
(HPアドレス) <https://tsubasa.minato-tky.ed.jp/>



雨の日に



「秋雨前線が29日も本州南岸に停滞し、東京都心は朝から雨を観測した。気象庁によると、8月27日から34日連続で雨となり、1886年の統計開始以降で過去最長を更新した」という報道を見ました。

実際、9月30日も雨でしたので、9月は毎日どこかの時間に雨が降ったことになります。これだけ雨が続けるのは記憶にないなと感じていたら、統計開始以来の最長記録だったとのこと。それもそのはずです。我が家でも、月間のコインランドリー利用回数が過去最高を記録してしまいました。

長く続く雨にうんざりしながらも、せっかくだから雨にまつわる話を調べてみました。

日本には「雨降って地固まる」ということわざがあります。雨や嵐のような出来事のあとに、かえって物事の土台がしっかりする、という意味で使われます。

海外に目を向けてみると、アメリカの詩人、ヘンリー・ワズワース・ロングフェローの「The Rainy Day (雨の日)」という詩に、こんな一節があります。

Behind the clouds is the sun still shining;
Thy fate is the common fate of all,
Into each life some rain must fall,

雲の向こうでは、太陽は今も輝いている。
誰の人生にも、思うようにいかない時期はある。
どんな人生にも、雨の降る日はある。

人の毎日も、天気とよく似ているのかもしれませんが。すっきりと晴れて、何をするにも気持ちよく進める日もあれば、なかなか雲が晴れず、前に進む気持ちになれない日もあります。そんなとき、私たちはつい「早く元気にならなければ」「そろそろ動き出さなければ」と考えてしまいます。でも、雨が降っている日に、無理に晴れたふりをする必要はありません。雨宿りをしたり、立ち止まったり、ときには少し遠回りをしたりすることもあっていいのだと思います。

雨の間にも、植物は水を蓄え、土の中では根が伸びています。人も同じように、外からは変化が見えない時間の中で、考えたり、迷ったり、休んだりしながら、少しずつ次の一歩への準備をしているのかもしれません。

そして、いつか雲が動いたとき、以前とは少し違った景色が見えることがあります。
今、雨の中にいるとしても、雲の向こうから太陽がなくなったわけではありません。

“Behind the clouds is the sun still shining;”
雲の向こうでは、太陽は今も輝いている。

長く続く雨の中で、この言葉がいつもより少し心に残りました。

— Henry Wadsworth Longfellow, “The Rainy Day”

高校の先生のお話を聞く会

9月25日（金）に高校の先生のお話を聞く会を実施しました。今年度は東京都立新宿山吹高等学校と東京都立六本木高等学校の2校にお願いしました。お話の骨子を掲載します。

東京都立新宿山吹高等学校

1 学校のしくみ

- 朝から夜まで授業を行う昼夜間定時制です。
- 単位制・無学年制・四部制をとっています。
- 1部から4部まであり、所属する部を中心に授業を選びます。
- 普通科と情報科があります。情報科では、プログラミングや動画制作などの専門科目を学びます。
- 一般的な高校のような「進級」「留年」という考え方はありません。



2 学び方

- 毎年、自分で履修する科目を選び、自分の時間割を組みます。
- 朝の登校が難しければ午後からの授業を中心に、特定の曜日に授業を入れないなど、自分の生活リズムに合わせた時間割を組むことができます。
- 修得した単位を一つずつ積み重ねて卒業を目指します。
- 卒業には、3年以上在籍し、74単位以上を修得することなどが必要です。
- 最短3年間で卒業できますが、自分のペースで学ぶこともできます。

3 学校生活

- 制服はありません。
- 学校行事は多くなく、参加するかどうかは本人の意思が尊重されます。
- 授業の空き時間には、ラウンジや自習室などで過ごすことができます。
- 部活動もありますが、全日制高校のように全員に共通する「放課後」があるわけではなく、授業の空き時間などを利用して活動します。

4 自由さと自己管理

- 学校生活の自由度が高いことが大きな特徴です。
- その一方で、出席状況や履修、単位の修得は自分で管理することが必要です。
- 欠席するたびに学校から家庭へ連絡したり、登校を強く促したりする学校ではありません。
- 自分で考えて行動し、必要なときには自分から相談することが求められます。

5 相談体制

- 校内に相談室があります。
- 担当の先生のほか、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーに相談できます。
- 相談室は、相談をするだけでなく、休憩したり昼食を取ったりする場所としても利用できます。

6 不登校経験について

- 中学校時代に不登校であったかどうかは、特別に問題にしません。
- 過去にどうであったかよりも、これからどうしていくかを大切にします。

7 入試

- 新宿山吹高校は、チャレンジスクールやエンカレッジスクールではありません。
- 一般の選抜では、都立高校共通問題の国語・数学・英語と面接で選抜します。
- 情報科には推薦入試があります。
- 普通科・情報科や各部について、希望する順番をつけて出願することができます。

8 学校を選ぶときに大切なこと

- 自分に100%ぴったり合う学校はなかなかありません。
- 学校には、自分に合うところと合わないところの両方があります。
- 実際に学校を見て話を聞き、その学校の仕組みや生活が自分に合っているかを確かめることが大切です。

※この記事は、つばさ教室で新宿山吹高等学校の先生に説明していただいた内容をもとにまとめています。入試制度や募集内容等については、学校の最新の案内をご確認ください。

東京都立六本木高等学校

1 学校のしくみ

- 不登校や高校中退などを経験した生徒が、学び直しや再スタートに挑戦するためのチャレンジスクールです。
- 単位制・総合学科・三部制の定時制高校です。
- 1部・2部・3部があり、自分の所属する部を中心に授業を受けます。
- 必要に応じて、所属する部以外の時間帯の授業を選ぶこともできます。
- 入学後、状況に応じて所属する部を変更できる「転部」の仕組みもあります。



2 学び方

- 自分で履修する科目を選び、自分の時間割を組みます。
- 国語・数学・英語などを基礎から学び直す科目から、大学受験に対応する科目まで用意されています。
- 100を超える選択講座があり、海洋エコツアーリズム、陶芸、美容、天文など、体験的・実践的な授業もあります。
- 入学時に将来の目標が決まっていなくても、さまざまな学習や体験を通して、自分の好きなことや得意なことを見つけていきます。

3 学校生活

- 中学校時代に不登校を経験した生徒など、さまざまな事情をもつ生徒が学んでいます。
- 「高校では学校に通うことから始めたい」「新しいことに挑戦したい」という気持ちを大切にしています。

- 一人ひとりの状況やペースに合わせながら、高校生活を少しずつつくっていくことを大切にしている学校です。

4 相談・支援体制

- 担任だけでなく、教科担当、保健室、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーなどが連携して生徒を支えます。
- 欠席が続いた場合には家庭に連絡するなど、生徒が学校生活から離れてしまわないよう、学校からも働きかけます。
- 困ったときに本人から相談することを待つだけではなく、学校全体で一人ひとりを支えていくことを大切にしています。

5 「ステップ広場」

- 教室に入りづらくなったときにも学びを続けられるよう、校内に「ステップ広場」があります。
- ステップ広場での個別学習や、教室と別室をつないだオンライン授業など、そのときの状況に応じた学び方ができます。
- 教室とステップ広場を行き来しながら、無理のない形で少しずつ学校生活を続けることができます。
- 教室に入りづらいときだけでなく、静かに勉強したいときなどにも利用できます。

6 進路について

- 入学してすぐに将来の進路を決めるのではなく、学校生活や授業を通して少しずつ考えていきます。
- 1年次から、自分の興味・関心や将来について継続的に考える機会があります。
- 卒業年次には、面接練習や志望理由書の作成など、それぞれの進路希望に合わせた支援を受けることができます。
- 大学進学だけでなく、専門学校や就職など、一人ひとりに合った進路実現を目指します。

7 入試

- チャレンジスクールのため、一般的な都立高校の学力検査とは異なる方法で選抜が行われます。
- 中学校までの学習状況だけではなく、これから高校で学ぼうとする気持ちや意欲を大切に選抜です。
- 入試の詳しい内容や募集方法については、年度によって変更されることがあるため、最新の学校案内を確認する必要があります。

8 学校を選ぶときに大切なこと

- 六本木高校の教育目標は、「見つけて、磨いて、未来を拓く」です。
- 今まで学校に通えていたかどうかよりも、「高校では通うことから始めたい」「授業を大切にしたい」「いろいろなことに挑戦したい」という気持ちを大切にしています。
- 倍率だけで学校を選ぶのではなく、自分がどのような高校生活を送りたいのか、どのようなことに挑戦したいのかを考えることが大切です。
- 実際に学校を見て話を聞き、自分が「ここで学びたい」と思える学校を選んでほしい、というお話がありました。

※この記事は、つばさ教室で六本木高等学校の先生に説明していただいた内容をもとにまとめています。入試制度や募集内容等については、学校の最新の案内をご確認ください。